

長崎県感染症発生動向調査速報（週報）

2021年第50週 2021年12月13日（月）～2021年12月19日（日） 2021年12月23日作成

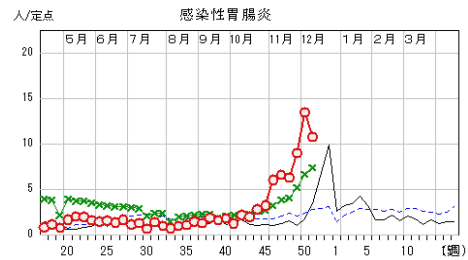
☆定点報告疾患（定点当たり報告数の上位3疾患）の発生状況

（1） 感染性胃腸炎

第50週の報告数は475人で、前週より119人少なく、定点当たりの報告数は10.80であった。

年齢別では、4歳（65人）、3歳（62人）、5歳（62人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、佐世保市保健所（33.50）、県北保健所（13.67）、長崎市保健所（11.50）であった。

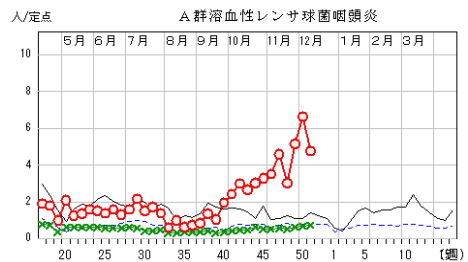


（2） A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

第50週の報告数は210人で、前週より82人少なく、定点当たりの報告数は4.77であった。

年齢別では、2歳（29人）、3歳（27人）、5歳（27人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、県南保健所（27.20）、県央保健所（11.50）であった。

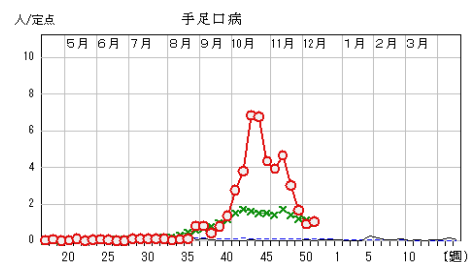


（3） 手足口病

第50週の報告数は46人で、前週より6人多く、定点当たりの報告数は1.05であった。

年齢別では、2歳（18人）、1歳（17人）、3歳（6人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、県央保健所（2.50）、佐世保市保健所（2.33）、長崎市保健所（1.60）であった。



○ 当年(長崎県) 前年(長崎県)
 × 当年(全国) 前年(全国)

☆上位3疾患の概要

【感染性胃腸炎】

第50週の報告数は475人で、前週より119人少なく、定点当たりの報告数は10.80でした。地区別にみると佐世保地区（33.50）、県北地区（13.67）、長崎地区（11.50）は他の地区より多くなっています。前週より減少しましたが、全国的に増加傾向にあり、さらなる流行も懸念されますので、今後も予防に努めましょう。

本疾患は、細菌又はウイルスなどの病原微生物による嘔吐、下痢を主症状とする感染症です。原因はノロウイルスをはじめとするカリシウイルスやロタウイルス、エンテロウイルス、アデノウイルスなどのウイルス感染による場合が主流ですが、腸管出血性大腸菌などの細菌が原因となる場合もあります。原因微生物のうち、ロタウイルスについてはすでにワクチンが認可されていますので、予防することが出来るウイルスです。特に乳幼児には、手洗いの励行とともに、体調管理に注意して感染防止に努め、早めに医療機関を受診させましょう。

【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎】

第50週の報告数は210人で、前週より82人少なく、定点当たりの報告数は4.77でした。地区別に見ると県南地区（27.20）、県央地区（11.50）は、警報開始基準値「8.0」を超えています。今後も動向に注意しましょう。

本疾患の好発年齢は5歳から15歳で、鼻汁、唾液中のA群溶血性レンサ球菌を含む飛沫などによってヒトからヒトへ感染します。また、食品を介しての経口感染もあります。潜伏期間は約1日から4日で、突然の発熱（高熱）、咽頭痛、全身倦怠感、時に皮疹もあります。急性期患者の感染力は強いですが、適切な抗菌薬の投与により、多くは1日から2日後には症状も消失し、感染力も著しく低下します。不十分な治療は無症状保菌者を生じやすいため、早めに医療機関を受診するとともに、手洗いやうがいを励行し、感染防止に努めましょう。

【手足口病】

第50週の報告数は46人で、前週より6人多く、定点当たりの報告数は1.05でした。県全体では、警報開始基準値「5.0」を超えた第42週から警報レベルにありましたが、第48週に警報終息基準値「2.0」を下回り、減少傾向にあります。

手足口病は、口腔粘膜および四肢末端に現れる水疱性発疹を特徴とする乳幼児に多いウイルス性疾患です。感染経路は、糞口感染が主体で、飛沫感染や水疱内容液からも感染します。急性期に最もウイルスの排泄量が多く、回復後も2週間から4週間程度は、便中にウイルスが排泄されるため感染源となりえますので、保護者は乳幼児に手洗い、うがいを励行させて、感染防止に努め体調管理に気を付けてあげましょう。原因ウイルスの種類によっては手足口病とともに無菌性髄膜炎や脳炎を併発させることもありますので、保護者は早目に医療機関を受診させてあげるよう心掛けましょう。

☆トピックス：感染性胃腸炎に注意しましょう！

第45週より県内で感染性胃腸炎の患者が増加しています。第50週の定点当たり報告数は10.80で、全国より多くなっています。特に佐世保地区は、警報開始基準値「20.0」を上回っています。前週より減少しましたが、まだまだ油断は禁物です。

本疾患は、細菌又はウイルスなどの病原微生物による嘔吐、下痢を主症状とする感染症です。原因はノロウイルスをはじめとするカリシウイルスやロタウイルス、エンテロウイルス、アデノウイルスなどのウイルス感染による場合が主流ですが、腸管出血性大腸菌などの細菌が原因となる場合もあります。

例年冬期に患者数が増加するのがノロウイルスによる胃腸炎です。ノロウイルスの潜伏期間は1～2日で症状の持続期間は数時間～数日です。症状は他の胃腸炎ウイルスと同様に嘔気、嘔吐、下痢が主で、腹痛や発熱を認める場合もあります。乳幼児から成人に至るあらゆる年齢に感染します。

また、ノロウイルスは食中毒の原因としても検出されるウイルスです。ノロウイルスに感染した患者の手指から食品を介して感染します。

予防には手洗いが重要です。手洗いを励行し、体調管理を行い、積極的な感染防止に努めましょう。

長崎県における感染性胃腸炎報告数の推移

